



第48号

# さらしなの里

友の会だより



2023・春



## 3年ぶりの開催

新型コロナウイルス感染症拡大のため開催を見合わせていた「さらしなの里縄文まつり」を昨年10月30日、3年ぶりに、縮小開催しました（3ページに写真特集）。縄文食の体験などはできないけれど、やれることをやってみようと時間を午前に限定し、さらしなの里縄文村の伝統文化のエッセンスをみんなで確認することにしました。

この日の朝は、いつ雨が降ってもおかしくない曇り空。縄文まつり実行委員会の皆さんが会場を整え、更級小学校の児童と教職員が到着。豊城巖・縄文村村長むらわさの開村宣言と花火に続き、聖火着火式と豊穰儀礼。今回は「羽尾神楽」の皆さんにもご参加いただき、疫病退散を祈願して神楽の舞を奉納してもらいました。

残念ながら2年生が参加できませんでしたが、各学年の児童がこの日のために考え練習してきた芸能を発表しました。児童だけでなく、更級小PTAの地区対抗による「火起こし競争」や、実行委員会メンバーによる「姨捨伝説」の寸劇など、例年とは一味違った芸能村となりました。

最後に4年生の縄文太鼓の演奏にあわせ、縄文の歌「祈り：（縄文のムラに）」を参加者全員で合唱し、28回目のさらしなの里縄文まつりは無事終了しました。

皆さんが楽しみにしている縄文食体験が今年も復活できるかどうか。やりたいですよね！今年の縄文まつりは、10月29日の予定です。

（さらしなの里縄文まつり実行委員会事務局）

## 初めての試み

## 千曲市歴史講座

さらしなの里歴史資料館では開館以来、各方面で活躍されている先生方をお招きしての講演会や講座を毎年開催してきましたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、平成30年度の小林達雄先生の講演を最後に、開催できない状態が続いていました。

さすがに3年も空いてしまうと、



再開するのは容易なことではありません。ただ手をこまねいていても仕方ないので何かやってみようと、講演会に代わる新たな試みとして、千曲市の学芸員と2名の外部講師による計7回の「千曲市歴史講座」を企画しました。

今回の講座は更級地域の歴史を主題とし、各講師が専門とする分野や研究課題としている縄文時代から中近世、あんず栽培の歴史に戦争遺産と、多岐にわたる内容となりましたが、どの講座も中身が濃く、私自身も新知見となるお話が数多くありました。

この歴史講座は、千曲市の歴史を知ってもらうのはもちろんですが、市学芸員それぞれのスキルアップと、さらしなの里歴史資料館を活用し存在を知っていただくことも目的の一つとなっています。

今年度以降も継続していく予定ですが、今後は千曲市全域にわたる歴史や、何か一つのテーマに沿った各時代の歴史など、受講した皆さんが楽しみながら学べる、そんな講座ができればと考えています。

(さらしなの里歴史資料館 寺島孝典)

リレイ  
里麗エッセイ

## ふるさとの山

千曲市羽尾4区 野本紗世



私は鹿児島県出身です。私にとって第一の「ふるさとの山」は鹿児島のシンボルである「桜島」です。実家から少し行くと、鹿児島湾に囲まれた雄大な桜島を望むことができ、帰省した際には桜島を見て、帰ってきたことを実感します。

桜島は現在も噴火を続ける活火山です。鹿児島の天気予報では、「降灰予報」があり、風向きによる降灰が予想される地域

を教えてください。灰が降ると、セーラー服の白い襟に灰色の斑点ができ、髪は火山灰でギシギシ、洗濯物は外に干せず、町中に灰が積もり、灰色の世界になります。降灰後は、通りに積もった灰をかき、「克灰袋」と呼ばれる専門の袋に集め、指定場所に置いておくと収集してもらえます。

県民にとって少し困りものの一面もある桜島ですが、火山の恵みの温泉や、火山灰を使った陶芸、ガラス製品、化粧品、農業にも利用され、恩恵もたくさんある素晴らしい山です。

桜島から離れること直線距離で約880キロ。この4月から冠着山が第二の「ふるさとの山」になりました。民話や伝説の残る冠着山は特徴的で、桜島とは違った緑の多い静かにたたく山の印象です。2歳の娘にとっての「ふるさとの山」は冠着山になります。彼女に冠着山の素晴らしさを教えていきたいと思っています。

# さらしなの里縄文まつり

写真で見る3年ぶりの



## 縄文人の言葉を聞き取る

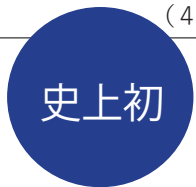
更級小学校教頭 青木猛

私は、さらしなの里縄文まつりに初めて参加しました。更級小学校に赴任して、楽しみにしてきた大きな行事の一つでした。

なぜならば、中学校で社会科教師として、縄文時代や弥生時代には力を入れて教えてきたからです。きっかけは、元信州大学教育学部で社会科教師の養成に携わってきた澁澤文隆先生と、元信州大学教育学部付属松本中学校副校長、牛山榮世先生が存在が欠かせません。

澁澤先生は、東京書籍の中学校社会科歴史の教科書に出てくる「縄文時代のむらの図」の人物100人に吹き出しをつけて、「何をしゃべっているのか入れてみなさい」と、我々社会科教師に課題を与えました。今まで、「縄文時代のむらの図」

を授業で扱ったことはありませんが、まさか図の一人ひとりが「何をしゃべっているか考えてみなさい」という授業は考えたことがなかったため驚いたとともに、図に描かれた縄文時代のむらの人々には、縄文時代ならではの意味のある言動が隠されていたことに気づかされました。牛山先生からは、フィールドワークの大切さを教えていただきました。その場で、その時に、何を自分が感じたかをメモしていきます。ある遺跡を、歩いて感じたことを1日中すべてメモしていくと、その時代の人々になった気がしました。そこで、今回の縄文まつりでの、子どもたちの意味ある「言葉」に耳をそばだて、聞き取りすることに力を置きました。そこではフィールドワークを体験している自分自身に気付かされ、縄文時代を実感させていただきました。



# 冠着山と中秋名月のツーショット



「冠着山と満月」 撮影 大代孝浩  
2022年9月11日午前1時20分頃 冠着山南側の農道  
（標高56.7m、シャッター1/60秒、ISO1600）  
「冠着山の左側」を撮影して中秋の名月、千曲の左、更級川まで撮影  
しました。満月が冠着山にかつたのは夜を過ぎてから、暗闇を待つ「冠着山」が、  
月の光を浴びており、里の風景とよくマッチングをとりあわせて撮影しました。

平安時代の人は  
こんな月と冠着山  
の景色をみて  
歌を詠んだのかも  
しれないね

さらしなの月に  
あこがれて  
有名人が作った  
和歌と俳句

藤原定家が  
書き写した  
「更級日記」は  
国宝だよ

月も出でて闇にくれたる娘捨に  
なにとて今宵たづね来つらむ  
「更級日記」作者 菅原孝標女

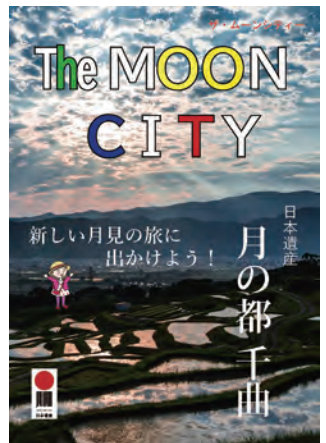
はるかなる月の都に契りありて  
秋の夜あかささらしなの里  
藤原定家

さらしなや雄島の月もよそならん  
ただ伏見江の秋の夕ぐれ  
豊田秀吉

曇るとも照るとも同じ秋の夜の  
その名は四方にさらしなの月  
伊達政宗

佛や娘ひとりなく月の友  
松尾芭蕉

一夜さは我さらしなよさらしなよ  
小林一茶



さらしなルネサンスはこの春

「月の都千曲市」の魅力子どもたちにも知ってもらおうガイド冊子「The MOON CITY」を制作しました。

この会は「月の都千年文化再発見の里づくり」をスローガンに2014年に発足。それから6年たった2020年、スローガンに使った「月の都」が千曲市の日本遺産のタイトルになっ

たので、「月の都さらしな」の魅力を子どもたちに伝えるチャンネルと考えました。2021年から行っている小中学校への出前授業の内容を、さらに楽しく面白く紹介しています。テーマは、月の都になった理由、姨捨の棚田の成り立ち、田舎の月のメカニズムの3つ。月の都になった理由では、史上初となる冠着山と中秋名月のツーショット写真を掲載しています（9ページ）。冠着山のふもとの更級小学校の大代孝浩先生が、去年の中秋9月11日の深夜遅くまでねばって撮ったものです。冠着山は千曲市を日本遺産「月の都」にした、はじまりの和歌に登場する山です。この和歌は10世紀初めの平安時代に作られた「わが心慰めかねつさらしなや姨捨山にてる月を見て」のというもので、「姨捨山」は冠着山のことです。そのくらい冠着山は「月の都」となるうえで重要な

役割を果たしたのに、月と一緒に撮った写真がこれまで見つからなかったのが、写真が得意な大代先生に依頼し、撮ってもらいました。さらしなルネサンスではおとしから、さらしなの里がある千曲市の面白い景色を、写真と言葉で子どもたちに表現してもらうコンテストを行っています。ことしの3回目は、新たに「冠着山と月」の部門を設けます。すでに作品の応募を受け付けています。ふるって作品を送ってください。（大谷善邦）

**編集後記** 3年ぶりの縄文まつり。はじめて体験する子どもたちがたくさんいました。更級小PTA、まつり実行委員会メンバー、羽尾神楽保存会：地域を挙げて、みなさんが集結しました▽エッセイを寄せてくれた鹿児島県生まれの野本紗世さん。冠着山が大好きになったようで、うれしいです▽「月の都」は、鏡台山から上がる月だけではありません。冠着山と月のツーショット、みなさんも撮ってみてください。